

周知

令和4年 8月 24日（水）運営会議決済完了

【議題】 令和4年度 予告なし避難訓練について

健康安全指導部

1. ねらい 予告なしの避難訓練を行うことで、これまでの避難訓練でつけた力を活用しながら、児童が自ら考え行動できるようにする。
2. 日時 第1回 令和4年9月8日（木） 中休み～3時間目（10：35～11：10）
※雨天時は延期
第2回 令和4年10月27日（木） 昼休み～モジュールタイム（13：15～13：50）
※雨天時は延期
3. 場所 附属小学校校舎・運動場
4. 参加者 附属小学校児童・教職員
5. 想定 休み時間に震度5強の地震（緊急地震速報）が発生。津波の心配なし。出火のため運動場に避難する。
6. 展開

時刻	活動の流れ	教師の対応	児童の動き
<ul style="list-style-type: none"> ・事前指導を9月8日までに指導し、「今週のどこかで訓練がある」という旨を伝えておく。（「予告なし避難訓練学習指導案」をもとに授業を行なう。） ・四校園事務室、守衛に避難訓練があることを事前に伝えておく（主幹） 			
10：35 (13:15)	○172 放送による通報を聞く。		
172放送（主幹） 「ただいまより、避難訓練を開始します。緊急地震速報、緊急地震速報。その場で身を守りましょう。緊急地震速報、緊急地震速報。その場で身を守りましょう。」			
10：38 (13:18)	※情報を収集するために必要な時間であることを児童に意識させる。 ○火災発生 of 通報を聞く ※非常ベルは押した後、上にある出っ張ったバーを奥に入れ込む必要がある。	○担当場所（7項参照）で児童の様子を観察する。 ※必要があれば指導・支援をする （観察の視点） ・静かに放送を聞いているか。 ・身を守る行動をとれているか。 ○甲斐先生（第一発見者）が理科室の非常ベルを鳴らし、理科室で火災が起きた旨を職員室に伝える。 ・報告を受けて、主幹教諭は職員室の一斉ボタンで非常	○活動場所で放送の指示を聞き、 <u>その場で安全を守る体勢</u> をとり、 <u>静かに待つ</u> 。

		ベルを止め、全校放送を行う。	
<p>172放送（主幹）</p> <p>「今の地震による津波の心配はありません。理科室で火事が発生しました。運動場に避難します。理科室で火事が発生しました。運動場に避難します。避難開始！！！」</p>			
10:45 (13:25)	<p>○消防署への通報訓練 (119番通報：教頭) ※2回目のみ実施</p> <p>○避難開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難時間の計測（校長） ・避難様子の観察 (校長・教員) ・車両を止め、児童の横断を優先させる（教務） 	<p>○担当の場所（7項参照）で児童の様子を観察する。</p> <p>※児童の様子を観察するため、初期消火は実施しない。（観察の視点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おはしも」を守って移動できているか ※必要があれば指導・支援をする ・担当場所の児童の避難を確認した後、運動場へ集まる ・連絡先付き名簿・公用携帯電話携行（教務） 	<p>○避難を開始する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近い出口から運動場へ避難する ・近くに帽子がある場合は帽子をかぶり、ハンカチで口や鼻をふさぎ、火元から離れるように避難する ・運動場の避難場所に集まる（ぞうさんタッチ前）
10:50 (13:30)	<p>○運動場整列（8項参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人員点呼（整列して確認） 	<p>○人員点呼をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点呼後本部へ報告する 	<p>○各学級出席番号順2列並ぶ、欠席は空ける</p>
<p>〈報告の仕方〉 担任 → 学年主任 → 校長 〈報告の仕方〉 「○年○組 出席□名 欠席△名 全員います」</p>			
10:55 (13:35)	<p>○講評(校長, 健安部担当)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訓練を振り返って(校長) ・避難時間, 避難の様子について(健安部担当) 		
11:05 (13:45)	<p>○各教室へ移動</p> <p>※靴裏を拭くためのマットを用意しておく。 (健康安全指導部)</p>	<p>○教室へ戻るときも訓練であることを意識させて、教室へ移動する。</p>	<p>○低学年から順に静かに校舎へ移動する</p>
11:10 (13:50)	<p>○事後指導(各教室にて)</p>	<p>○事後指導を行う</p>	<p>○担任の話を聞き, 今日の訓練を振り返る</p>
<p>(事後指導の観点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放送の内容を聞き取ることができたか。 ・頭や体を守ることができたか。 ・「おはしも」を守ることができたか。 ・火元から離れるように考えて避難することができたか。 ・放送がなってから教室に戻るまで、真剣に取り組むことができた 			

7. 予告なし避難訓練 事前指導案

(1) ねらい 地震と火事が起きたときの安全な行動について、放送で聞く視点や身を守る姿勢、火事の際の避難経路の考え方について知り、聞き取りの練習をしたり、各場所での身の守り方や避難経路を考えたりすることで、避難の際に自分で考えて行動しようとする態度を育てるようにする。

(2) 学習展開

学習活動	時	指導○ 指導上の留意点・	準備物・
1. これまでの日本の地震の様子を知り、めあてを持つ。	5	<p>○動画を見て感じたことを出し合う中で地震は授業中以外でも起きる可能性があることに気付くようにし、本時のめあてを提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画「地震の多い国日本」(NHK for school) を視聴後、感じたことを尋ねる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><予想される児童の考え></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本がこんなに地震の多い国とは思わなかった。 ・地震の後に大きな火事が起きていて、地震が止まってもすぐ安心できないと思った。 ・地震の後に津波が来たのもあれば、火事が起きたのもあって、気を付けないといけないと思った。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・地震後に火災が発生する可能性があることについて児童から考えが出なければ、教師から提示する。 ・世界中で起こる大きい地震の5回に1回は日本であることや時間が様々なことから避難訓練をした授業中以外でも起こり得ること、実際に起こった場合に自分で自分の命を守れるように今度予告なし避難訓練をすることを伝える。その後、めあてを提示する。 	・動画
めあて：休み時間に地震や火事が起きたときの身の守り方を考えよう			
2. 放送で聞き取らなければいけないことを知り、聞き取る練習をする。	10	<p>○避難する際の4つのポイントと、放送では何を聞かないといけないのかについて確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回避難訓練で確認した避難する際の4つのポイントについて考えることにより思い出すようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><避難する際の4つのポイント></p> <ol style="list-style-type: none"> ①放送を静かに聞き取る。 ②頭や体を守る。(体を小さく丸め、肘や膝、頭～首を隠す) ③「おはしも」を守る。 ④危険な場所から離れる。 (火事→火元、地震→崩壊している場所) </div> <ul style="list-style-type: none"> ・放送では①なにが起こるのか(起きたのか)、②どうするの 	・4つのポイント

<p>3. 場所にあった頭や体を守る方法を考える。</p>	<p>10</p>	<p>かを聞き取ることが大事だということを説明した後、実際に行ってみる。放送内容を読み、①と②がどのことばなのか聞き取らせる。</p> <p>＜放送内容＞</p> <p>① 「ただいまより、避難訓練を開始します。緊急地震速報、緊急地震速報。その場で身を守りましょう。」</p> <p>② 「今の地震による津波の心配はありません。理科室で火事が発生しました。運動場に避難しましょう。避難開始！！！」※波線は口調強めに</p> <p>・「緊急地震速報」は、地震が発生したことを大きな揺れが自分たちの場所に届く数秒前に知らせてくれるものであることを押さえる。</p> <p>・実際に起こった場合は、伝える内容は変わらないが、表現が変わる可能性があること、言い方が変わっても聞かなければいけない部分は同じことを押さえる。</p> <p>・①周囲の音等により一度で放送内容を聞き取れない場合があるため、何度か内容を繰り返す場合があること、②「避難開始」と言われたら避難をすることを押さえる。</p> <p>○頭や体を守る基本の姿勢について知り、場所ごとに頭や体を守るためにはどこに移動すれば良いかを考えるようにする。</p> <p>・頭や体を守る基本の姿勢について写真を見せ、確認する。</p> <p>・教室や運動場などの写真を見せ、その場所で頭や体を守るにはどこに移動すればよいかを考え出し合うことで、安全な場所を確認できるようにする。</p> <p>＜頭や体を守る姿勢をとる場所＞</p> <p>・教室・図書室→机の下。※机の足をもつ。</p> <p>・廊下→窓ガラスや蛍光灯、倒れてくるものがないところ。</p> <p>※教室が近ければ、教室に戻って机の下に入る。</p> <p>・階段→段差のないところ</p> <p>※揺れが大きいときは、無理に移動しない。</p> <p>・運動場・広場→真ん中（窓や建物・遊具から離れる）</p> <p>※遊び道具は、その場で手放す。</p> <p>・スマイルガーデン→真ん中（窓や建物から離れる）</p> <p>・運動場で「静かに移動する」ことを昨年度からの課題として提示し、全学年が続けて意識できるようにする。</p>	<p>・身の守り方</p>
<p>4. 火事の場合避難</p>	<p>10</p>	<p>○火事が起きた場合は、「火元から離れる」が大事ということ</p>	

<p>の仕方と5つの出口を知り、場所にあった避難経路を考える。</p> <p>5. 振り返りをし、予告なし避難訓練へつなげる。</p>	<p>10</p>	<p>と5つの出口を説明し、それぞれの場所で近い出口はどこかを全体で考えることで、どの経路で逃げればいいのかを考えられるようにし、板書に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5つの出口（①1・3・5年靴箱、②2・4・6年靴箱、③ゴミ捨て場ドア、④事務室前玄関、⑤管理棟外階段）があり、近い出口から出ることを押さえる。 ・シチュエーションをいくつか提示し、どの出口から出るかを考え、全体で出し合うことで、考えられるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><例></p> <ul style="list-style-type: none"> ○給食室で火事があった場合 <ul style="list-style-type: none"> ・教室→第1回避難訓練の経路と同じ (変更した学級は変更後の経路) ・図書室→事務室玄関、外階段 ・運動場・広場→そのまま運動場へ ○理科室で火事があった場合 <ul style="list-style-type: none"> ・教室→2・4・6年は自分の学年の靴箱 1・3・5年は、ゴミ捨て場ドア ・図書室→事務室前玄関 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ベランダを通過して避難する際は、基本各教室ドアが施錠されているため、東側（渡り廊下側）にしか進めないことを押さえる。 ・近い出口が混んでいた場合も考えさせることにより、火や煙の様子、出口の込み具合で適切な出口を考えられるようにする。 ・ゴミ捨て場ドアが閉まっている場合は、カギとドアを児童が開けてもよいことを押さえる。 ・①運動場では、学年長がいる場所に各学級出席番号順2列（欠席空け）で整列すること、②帽子は被らなくても良い、③靴は履き替えななどを押さえる。 <p>○今日わかったことや、今後生かしていきたいことを振り返り、予告なし避難訓練へつなげる。</p>	
---	-----------	---	--

8. 担当場所

場所	担当
教室・教室前廊下	各学年1名
運動場・集合場所	各学年主任
1・3・5年昇降口	1年担任（1名）
2・4・6年昇降口	2年担任（1名）
西側1階渡り廊下・ゴミ倉庫出入り口	梅木先生
広場	5年担任（1名）
中央階段	6年担任（1名）
保健室	野田先生
図書室	安東先生
中校舎1階・東側1階渡り廊下	桐野先生
横断歩道	森先生
東側階段・東側2階渡り廊下	4年担任（1名）
西側階段・西側2階渡り廊下	甲斐先生（3－1担任）
火元前（理科室前廊下） ※火元から離れながら避難できているかを見る。	甲斐先生（3－1担任） ※学年長が3－1担任の場合 は3－2担任が担当する

※実際に給食室以外で火災が起こった場合は、各学年1名程度火元へ行き、初期消火を行う。

今回は児童の避難の様子を見る為、初期消火は行わない。

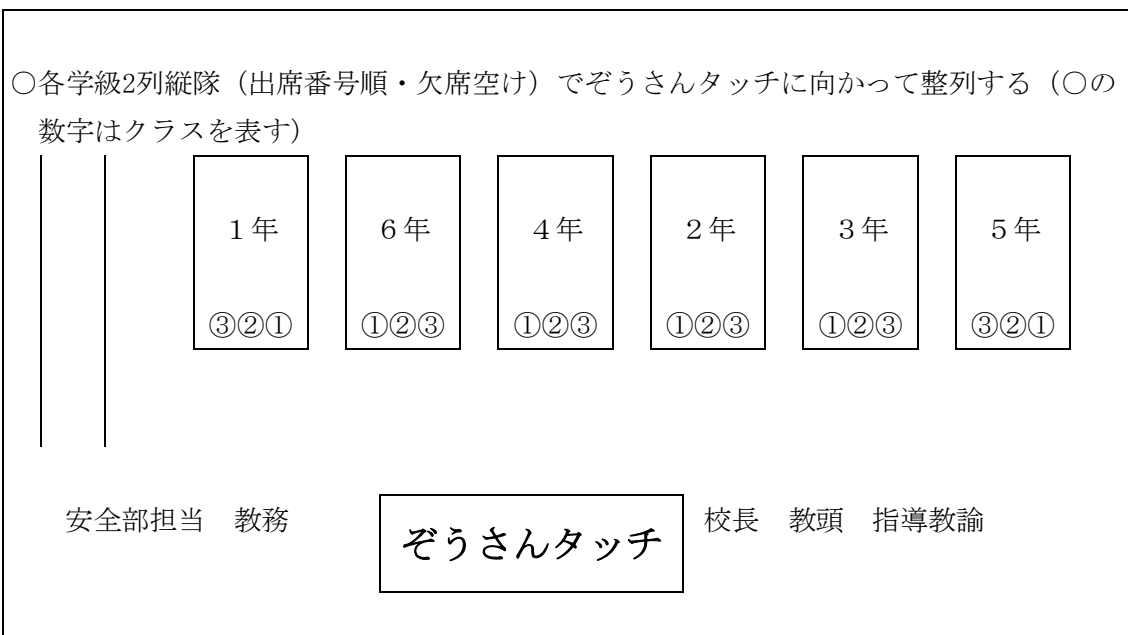
※その他の場所（体育館、プレイルーム等）は、昼休みは基本的に児童が使わないことになっているが、委員会や指導等で使用している場合は、付いている教員が避難の指導をする。

※給食室で出火の場合は、各学年担当場所を2人で行うようにする。

9. 避難場所及び集合隊形

密にならないよう、少し間をとる。マスクを必ず着用。なければ、ハンカチを口に当てる。

※他の避難訓練の経路とそろえる、避難経路が交差しないようにするために1・5年は③②①の順。



10. ふり返りについて

・ふり返りを行い，児童の実態把握をする。

＊「避難の際の4つのポイント」を振り返るアンケートをロイロノートで行う。(担当で原本を作成)

アンケート保存場所(指導用動画「地震の多い国日本」も同様)

「ロイロノート → 資料箱 → 先生のみ → 職員共有フォルダ → 予告なし避難訓練」

・ふり返りを積み重ね残しておき，活用できるようにする。

＊共通フォルダ[600 健康安全指導部 > R4 > 避難訓練・防犯訓練 > ふりかえりカード(案)]に入れていきますので，学年に応じて修正の上ご使用ください。

11. 日頃の授業を通して意識させたいこと

・並ぶときに尋ねたり教えたりすることも大勢で動く場合は大きな声になってしまうことから，

①周りを見て自分で考え並ぶこと ②並ぶときに声を出さないこと を意識させる。

12. 管理職 緊急時持ち出し物 チェックリスト

担当	チェック物	
教務	連絡先付き名簿・公用携帯電話 非常持ち出し袋(懐中電灯・メガホン・トランシーバー)	
教頭	全校児童連絡名簿・引き取り人登録カード	

※健康安全指導部が，避難訓練前に非常用持ち出し袋の機器が使用できるかチェックする。

※靴裏を拭くためのマットも用意しておく。

※引き取り人登録カードを全学級入れておく。

13. 主幹教諭による関係各所への連絡

○附属幼稚園・附属中学校・附属特別支援学校・附属事務室・朝日警備保障 に実施連絡が必要。

